

キャリア・就職支援ワークショップ

「高等教育界から見る支援の在り方」

文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業委員会」委員

加藤敏明

はじめに

インターンシップ等を通じての
就職支援に対する
我が国の基本的な考え方

●中教審答申●

(平成24年8月28日 答申)

(求められる学士課程教育の質的転換、抜粋) 従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。

(質的転換に向けた更なる課題、抜粋) 学修と就職活動との相克は、喫緊の課題として企業側の理解を得て解決されなければならない。大学生の主体的な学修の確立や学修への動機付けという観点から、地域社会や企業と大学や大学間連携組織(コンソーシアム)が新しい連携・協力関係を構築することが期待される。

●産業競争力会議の到達点●

(平成27年2月17日 第4回会議資料より作成)

<問題意識>

高等教育段階では「何かしらのプロ」になることを目指し「自らが希望する職について実践的に学ぶ」といった段階的なキャリア教育、職業教育を確立すべき



<施策の基本的考え方>

※教育プログラム、教員の体制等の構築

教育内容は、社会人の専門性に相応しいものとするために、産業界と密に連携しながら作り上げてゆくことが必須要件

⇒企業と協力し、長期間または定期的に学生が企業に出向き働きながら必要なスキル・知識を身につけ、その実践をもとに授業内の討論を通じ、形式知化することが不可欠

教員は、実務家の積極的な登用を図ることが重要

⇒実務家教員は、経験談に留まらず、知識や経験が形式知化され、教授方法の訓練が必要。併せて、一定の流動性が図られるべき

⇒全教員は「何かしらのプロ」を前提に多様な教育プログラムを提供すべき

●産業競争力会議でも示された課題●

(平成27年2月17日 第4回会議資料より作成)

<インターンシップの充実>

2%にとどまる学生のインターンシップ参加率を飛躍的に高める必要がある (量的課題)

インターンシップの実施期間が3週間未満である学生の割合が8割を占める現状を踏まえると、今後、長期のインターンシップを産官学で普及させる必要がある (質的課題)

(参考)「人材力強化のための教育戦略」文部科学省
平成25年3月15日

在学中に少なくとも半数の学生が(インターンシップに)参加することを目指す

(参考)「自由民主党政務調査会「キャリア教育推進特命委員会」提言
平成25年4月24日

大学在学中に、少なくとも半数の学生がインターンシップに参加

(参考)「日本再興戦略 ~Japan is Back~」
平成26年6月14日閣議決定

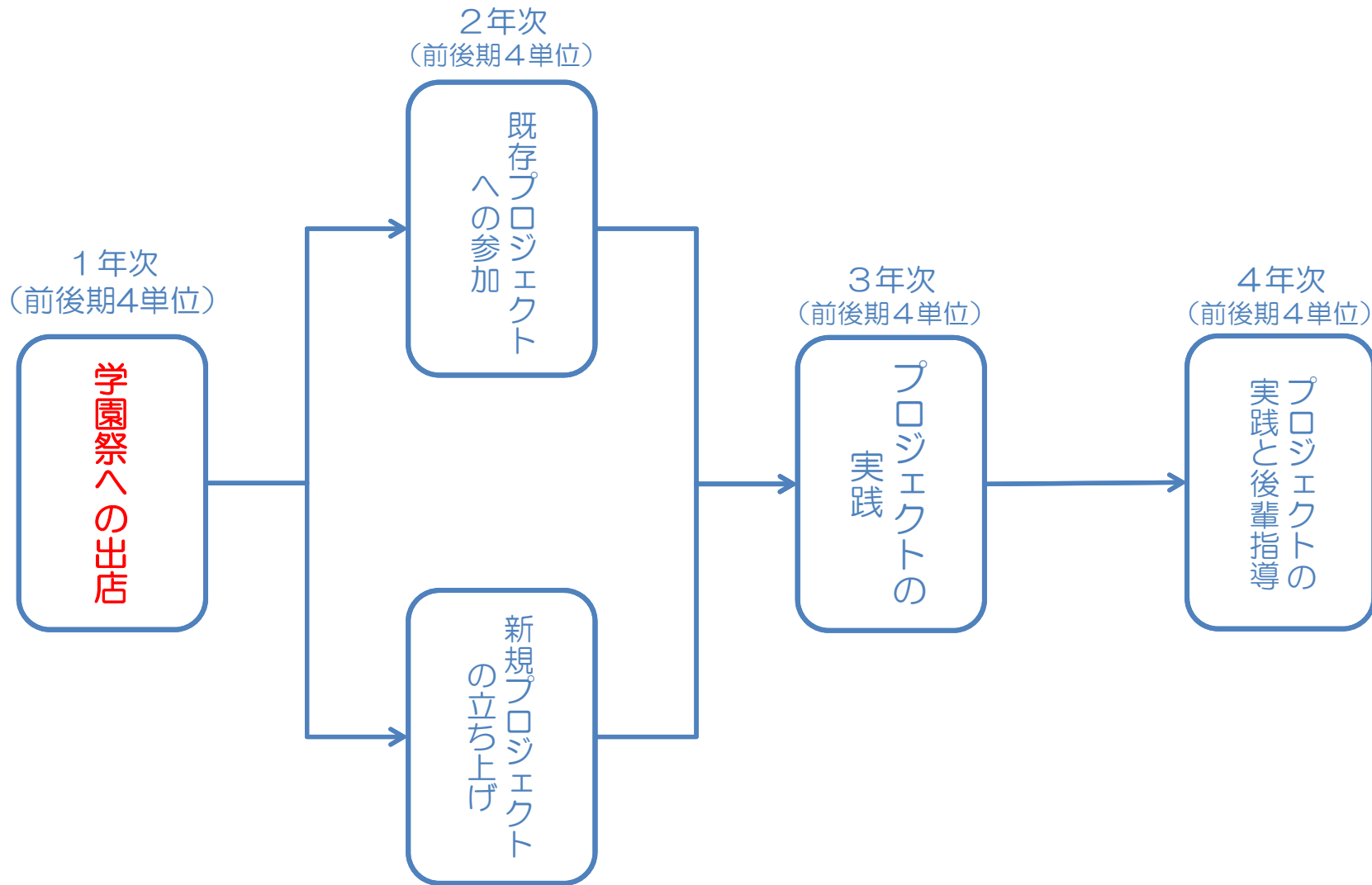
インターンシップに参加する学生の数の目標設定を行った上で、地域の大学等と産業界との調整を行う仕組みを構築し、インターンシップ、地元企業の研究、マッチングの機会の拡充をはじめ、キャリア教育から就職まで一貫して支援する体制を強化する

【量的拡充に不可欠な教育プログラム事例】

～ 午後の討論に向けて ～

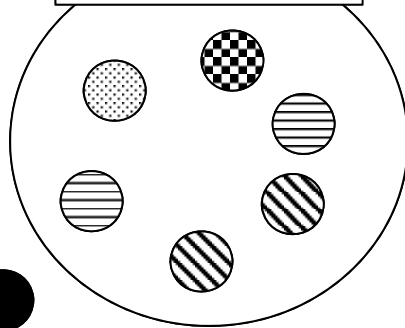
学修意欲を喚起する試み

九州産業大学 経営学部

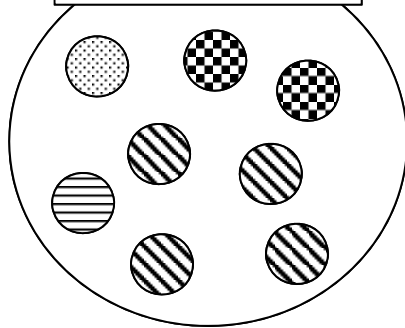


事業開発コース

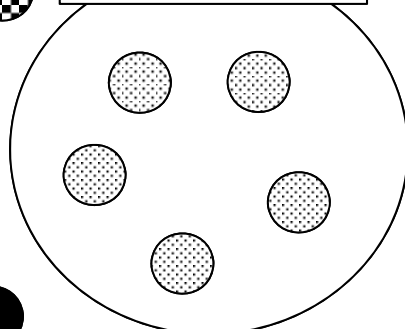
プロジェクトA



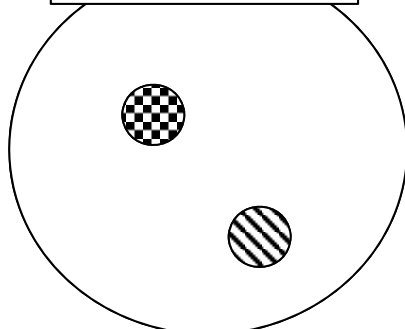
プロジェクトB



プロジェクトC



プロジェクトD



● 1年生 ● 2年生 ● 3年生 ● 4年生 ● 教員



[基本的な考え方]

(学修意欲の低い学生の意識構造分析)

教員との信頼関係を構築できない



内発的動機づけ（自己決定感）がすべての基礎



<教育上の工夫 その1>

選択肢をさりげなく、多彩に用意する
(複合的な体験型学習)

<教育上の工夫 その2>

教員は、学生が選択するまで粘り強く待ち続ける
(教員のダイバーシティ I)





第11回 大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト

主催：大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト実行委員会【九州経済産業局、福岡市、(社)九州経済連合会、
(株)中小企業基盤整備機構九州支部、日刊工業新聞社西部支社、(財)九州地域産業活性化センター、(社)九州ニュービジネス協議会】
後援：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、北九州市、西日本新聞社、佐賀新聞社、長崎新聞社、
熊本日日新聞社、大分合同新聞社、宮崎日日新聞社、南日本新聞社

未来防災教育プロジェクト
「これからの未来へ一人でも多くの命が助かるように」
九州産業大学 経営学部 経営情報学系
Uttah(ユース)
「若者に幸せな人生と生きる意味を」
九州産業大学 経営学部 経営情報学系
情報管理システムによる教育現場の支援
「自分たちで管理する、学生たちの情報」
九州産業大学 経営学部 経営情報学系

技術教育を組み込んだ福祉機器の開発
「障害のある方々への生活支援」



<教育上の工夫 その3>

繰り返し振り返らせ、語らせ、書かせる
(リフレクション学習)

<教育上の工夫 その4>

学生の人間力を最大限活かす
(ピアコーチング)

<教育上の工夫 その5>

教員はじっと温かく見守る
(教員のダイバーシティⅡ)

<教育上の工夫 その6>

決して飽きさせない仕掛けを用意し続ける
(教育の開示性)

取組の結果・・・

＜教育上の効果 その1＞

就職活動支援は特にしていない

＜教育上の効果 その2＞

大手企業よりも、自らの「夢」の実現につながる企業を探し選ぶようになった

最後に、

2015年度
「インターンシップ等実務者研修会」
について

●大学生の就業力育成支援事業●

(平成22年度)

入学から卒業までの間を通じた全学的かつ体系的な指導を行い、学生の社会的・職業的自立が図られるよう、大学の教育改革の取組を支援

●産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制支援事業●

(平成24年度)

大学・短期大学が地域ごとにグループを形成して、地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働のための連携会議を設置して(略)社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材の育成に向けた(略)大学グループの取組を支援(テーマA)

●産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制支援事業●

(平成26年度)

(テーマAの選定を受けている大学グループを)支援することを通じ、地域全体へのインターンシップ等の普及・定着を図るとともに、大学等におけるキャリア教育の充実を図り、平成27年度以降の卒業・修了予定者に対する就職・採用活動の後ろ倒しへの円滑な移行を目指す(テーマB)



インターンシップ等実務者研修会

管理者タイプ【独立系】

- ①学内外調整 ②決裁権

教育プログラム開発タイプ【教員系】

- ①P開発と実践 ②情報収集、発信 ③大学間連携

導入教育P開発、学修意欲喚起タイプ【教員系】

- ①P開発と実践 ②情報収集、発信 ③大学間連携

学内外調整タイプ【専任教員系】

- ①研究科、学部、学科内調整 ②大学間連携

業務遂行タイプ【職員系】

- ①学生対応 ②企業等開拓 ③大学間連携